

第2表の2 (小)

学校名 清瀬市立清瀬第四小学校

(2) 特色ある教育活動

学校の「よさ」を生かしつつ児童の力を伸ばすことや、課題を解決することを方針として特色ある教育活動を推進する。

ア 自然体験・栽培・観察活動の充実（考える力の土台づくり）

- 外部人材を積極的に活用し、各学年段階に応じた自然体験・栽培・観察活動、フィールドワークの充実により、児童の現実の世界や生活などへの興味・関心、意欲の向上を図る。
- 自然環境や生命を尊重する態度の育成、せせらぎ公園や空堀川・中里緑地等での学習、草花・野菜の栽培活動等に取り組み、自然や郷土を愛する精神を培い、実感を伴った理解の向上及び課題発見力や探究心を育む。

イ 算数の学力向上、基礎・基本の定着（考える力の土台づくり）

- 全ての学年で、「東京ベーシック・ドリル」「ドリルパーク」を積極的に活用した「くり返し指導」、「立ち戻る指導」等の充実を図り、基礎・基本の確実な定着を図る。
- 低学年からの TT 指導や習熟度別少人数指導と併せて、習熟の二極化を解消する。特に、補充的な指導では、「東京ベーシック・ドリル」等で、つまずきの傾向を把握し、前学年までの既習事項の学び直しや反復学習などを徹底する。

ウ 「言語力向上」のための「清四漢検」の実施と、校内研究の充実（言語力の土台づくり）

- 語彙を豊かにするために、漢字学習を重視し、前年度までの漢字を正しく書く力が身に付く指導体制を構築する。全ての学年で、本校独自の「清四漢検」を実施し、定着を図る。
- 前の学年までの漢字が書けるようになることを“大目標”とし、児童一人一人の課題を明らかにして、自覚を促し必要感をもたせて取り組ませる。
- 漢字を含めた「知ってるつもり知識」や「使っていない技能」を脱却し、「生きた知識・技能」となるような国語授業の充実。
- 年間講師を招聘し、言語力向上を課題とした校内研究を充実させ、指導力の向上を図る。

エ 「トーゴ・四小 ともだちプロジェクト」の実施（考える力の土台づくり）

- 学校の子どもたちとトーゴ共和国大使館との交流を推進する NPO 法人 CMC の協力により、「トーゴ・四小 ともだちプロジェクト」を実施し、大使館関係者や現地の子どもたちに 6 年生がメッセージを発信する。
- 世界市民の意識をもち、国際理解を進めるための情報活用能力、言語力を伸ばしていく。
- SDG s の精神の学びの機会とし、自分ができることから世界の人々のために貢献していこうとする意欲を育てる。
- 「豊かな国際感覚」を養い、世界との繋がりを意識し、「人ごと」から「自分ごと」へのものの見方・考え方の転換を促す。